

令和5年度第3回創造農村部会 開催報告

【全体概要】

- 第3回創造農村部会は、全5団体の部会員が参加しオンラインで開催した。
- 今年度実施した2回分の部会を振り返り、部会員からの感想や実際に部会員の自治体で活かさないか検討していることなどを共有し、意見交換を行った。
- また、今年度の実施内容を参考に、来年度の部会の開催時期やテーマについて検討した。

開催日時	令和6(2024)年1月17日(水) 15:00~16:15
開催方法	オンライン開催(ZOOM ミーティング)
主催	丹波篠山市
共催	創造都市ネットワーク日本(CCNJ)、文化庁
参加人数	13名
参加自治体・団体数	5自治体
プログラム	<input type="checkbox"/> 開催挨拶 ・酒井篤史氏(丹波篠山市企画総務部ブランド戦略課 課長兼係長) <input type="checkbox"/> 令和5年度年度第1・2回の創造農村部会の振り返り (1)各回の部会内容の要点説明 (2)各部会員の感想や各自自治体での活用方法等について意見交換 <input type="checkbox"/> 来年度(令和6年度)の創造農村部会の実施内容について (1)部会の大枠(開催回数・開催方法・開催予定時期) (2)勉強会(基調講演)や事例紹介などの検討 (事前アンケート調査の結果の共有) (3)現地開催の部会での実施内容の検討 <input type="checkbox"/> 閉会の挨拶(丹波篠山市、文化庁)

【担当者ミーティング】

1. 令和5年度年度第1回の創造農村部会の振り返り

(1)振り返り

- ・第1回創造農村部会ではオンラインで勉強会を開催。講師として豊岡市観光文化部観光政策課参与兼、豊岡演劇祭アドバイザーの田口幹也氏をお迎えし、「人材育成の『土台』となる取組みの醸成」をテーマとして講演いただき、意見交換を行った。
- ・同氏が実施されてきた取組についての話をお聞きし、その中で、①地域の資質を見える化して町全体で共有すること、②外部から地域に人を呼び込むためのコミュニケーションを設計すること、③文化やアーティストを取り入れることで文化的価値観と多様性のある社会を育んでいくことが、特に重要であるとの説明を受けた。

(2)意見交換

- ・勉強会について改めて振り返った部会員からは、移住者の増加による人口の社会増やコミュニティの活性化、学校設立の検討、地元の良さを再発見しブランド力を高めること

の重要性や伝えるべき相手の検討、アーティスト・イン・レジデンスが地元にもたらす可能性、持続性のある施策等についての感想や発言があった。

- ・また、他の自治体の取組を知ることによって共感することも多いとの意見も出た。

2. 令和5年度年度第2回の創造農村部会の振り返り

(1) 振り返り

- ・第2回創造農村部会は、岐阜県可児市で2日間にわたって担当者ミーティング及びエクスカージョンを実施。担当者ミーティングはオンラインでも配信し、公開型イベントとして開催した。
- ・担当者ミーティングの前半は、可児市文化創造センターala（アアラ）館長の籠橋義朗氏の「創造農村としての社会包摂型劇場運営の実践」をテーマとした基調講演で、「アアラ・まち元気プロジェクト」のビジョンや3本柱についての説明を受けた。後半は横浜市立大学大学院都市社会文化研究科客員教授の野田邦弘氏にモデレーターをお願いし、「創造農村の現状と取組について」をテーマに部会員によるパネルディスカッションを実施し、最後に野田氏から「過疎地域再生のレシピ」としての事例紹介と、CCNJ顧問の佐々木雅幸氏より部会の総括をいただいた。

(2) 意見交換

- ・現地で開催された部会を振り返った部会員からは、百聞は一見に如かず、部会員との様々な意見交換や想像を掻き立てられる現地視察は、大変有意義であったとの意見が多数あり、現地開催の重要性が改めて認識された。
- ・また、部会員を拡大することがネットワークの拡大につながり、ひいては部会員のまちのためにもなるとの意見も出た。
- ・顧問の佐々木氏は、ala（アアラ）が文化芸術の経済価値だけでなく、社会的価値も数値として示した功績に触れ、劇場をコミュニティの広場とする必要性を説かれた。

3. 来年度（令和6年度）の創造農村部会の実施内容について

- ・部会の大枠（開催回数・開催方法・開催予定時期）については、今年度と同内容とすることで全部会員が了承した。
- ・勉強会のテーマについては、アンケートで関心が高かった、①文化資源の更なる活用を検討するための先進事例、②文化資源を通じた（活用した）関係人口の拡大、などを中心に事務局で検討を進めることで承認された。
- ・現地開催部会の日程については、東川町の都合を優先しつつ、他の部会員の予定も考慮して検討し、早めに決定する。実施内容については、東川町や事務局の丹波篠山市、受託事業者の打ち合わせや、部会員へのアンケート等で要望を確認しながら調整し決定する。

